

社会派アニメーションを自社制作。海外で作品展開も

事業内容

日本のアニメーション文化を築いた東映動画（現・東映アニメーション）出身の向中野社長が、1982年に設立。練馬のスタジオと札幌スタジオの2拠点でテレビ・映画の作画業務を行う。自主制作による長・短編オリジナル作品を国内で上映すると同時に、海外の国際アニメフェスティバルなどでも紹介。

著作物

長編アニメーション作品	「土を喰らう」（2000年）
長編アニメーション作品	「Something Great 地図にない町」（2004年）
キャラクター PR 作品	「Shinto MAO」

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA

（2010年12月現在）



代表取締役 向中野義雄さん

社会的な問いかけを意識し アニメーションを制作

「うちのスタジオはワンマン経営。でも、判断が速いなど、ワンマンならではの良さもあると思います」

有限会社スタジオ座円洞の社長、向中野義雄氏は語る。同社は、1982年に設立されたアニメーション制作スタジオ。テレビアニメ「NANA」「クロスゲーム」などの作画を担当するとともに、長・短編の自社制作アニメ映画・教育用アニメーションを制作している。

同社の制作映画は、社会性の強いテーマを扱うのが特長。2000年から上映されている、長編作品「土を喰らう」では、向中野社長が講談社『アフタヌーン』誌に連載した漫画を原作に、若い医師が有機農法に触れることによって、「食育」や「健康」の意味を問い直すという、「医療」と「食」のかかわりを描いている。

同作品の上映会の際には、農業の実践体験も行われ



スタジオでの制作風景

た。2005年、北海道江別市の上映会で、上映実行委員会のメンバーが畑に大根の種を植え、実際に土に触れて栽培を体験、収穫した葉付き大根を上映会当日に無料配布した。このように、同社制作のアニメは、常に社会への働きかけを意識している。

2004年に制作された「Something Great 地図にない町」は、若者と認知症の老婆が出会うストーリー。原作・監督を担当した向中野社長が、「アニメを楽しむ十代と老人介護の世界、その二つが乖離し過ぎているという思いがあった。若い人が見て、今はピンと来なくても、いつか作品を思い出してくれば……」そう語るように、ごく普通の若者と認知症の老人のかかわりがユーモラスに描かれ、「老いとはどういうことか？」という問いに深く迫る内容になっている。

「たくさんの人に見てほしい」 知財をPRする人材の必要性

向中野社長は、「白蛇伝」など日本アニメの黎明期から現在まで有数の名作を生み出している東映動画（現・東映アニメーション）の出身。当時の同僚には宮崎駿もいた。会社を設立後も、オリジナル作品にこだわる。

社長自ら「ワンマン」というように、自社制作アニメの作品は、向中野社長が原作を担当したもの、あるいは原作にGOサインを出したものが多い。「当社の方針は、オリジナルのいい作品をつくること、それに尽きます。金がもらえるからと、納得がいか

COMPANY DATA

所在地：東京都練馬区中村北 3-21-7 中村ビル 4F

電話番号：03-3998-0699 URL：http://www.zaendo.com/

創業：1982年 資本金：300万円

従業員数：14人（2010年12月現在）

長編作品「土を喰らう」の原作本



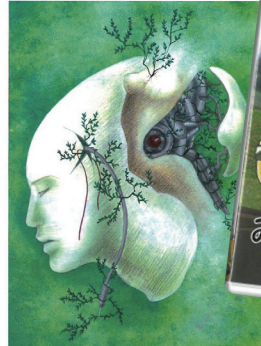
土を喰らう

向中野義雄

Now, the earth will be revived
because its soil will be
rejuvenated!

定価 1,000円

(本体) 953円



みんな
若いときがあったんだよね

アニメーション作品『Something Great 地図にない町』（文部科学省選定作品）挿入歌には ENYA の曲を採用。映画の内容が評価され、起用のチャンスを得た

い仕事をするつもりはありません」

社長の哲学、そしてアニメへの情熱・高度な技術力に魅力を感じているのだろうか、“ワンマン”な采配に異を唱える社員は少ない。また、社員の中から「機動戦士ガンダム」「新世紀エヴァンゲリオン」の作画で知られる磯光雄が育つなど、多くのアニメーターを育てている。

“知的財産”といえば、オリジナリティーの高い作品とそれを制作する人、とっていいでしょう。しかし、その権利を守る役割の人材を、今、探しているのです」と話す、向中野社長。

オリジナル作品の著作権は自社が所有、これまで侵害されたケースはないが、海外展開がスタートしようとしている現在、知財を管理する人の必要性を感じているという。

「作品の権利を守るだけではありません。より多くの人に見てもらえるように、作品や上映会の広報を担当してくれる、“知財 PR”係を募集中です」

会社の収益に貢献“知財PR”の役割

アニメのオリジナル作品を自社制作・自主上映しながら、企業として収益を上げていく。——クリエイティブ活動を事業の柱とする同社は、安定経営が難しい業態といえるだろう。しかし、「オリジナル作品を重視する」という社長の姿勢にブ

知的財産活用のポイント

レはない。また、アニメーションの制作会社には珍しく、年1回ボーナスを支給していることも、社員を大切にしている姿勢の表れとして印象的である。国内・海外へ向けて、より広く作品をアピールする“知財 PR”を味方につけたとき、その活動はより強力になるだろう。